

注目パーツからニッチなカスタム事情までスクーターに関するあらゆるネタをドーンとお届けする月刊スクーターチャンプ。今号は「一步上の走りを楽しめるSPLパーツ(P159)」と「激改! スリーター集団(P160~)」をお届けです。

**クランクケース内を減圧する → 摺動抵抗etc.が減りピストンがスムーズに動く  
= エンジンが軽く回る → エンブレの効きが優しくなる → 燃費が良くなる**

シグナスX  
オーナーは  
要注目!

今回紹介するのはノーマルマシンにポン付けでも効果は体感でき、ポアアップ車に使うとその効果はさらに割増し、街乗りでもレースシーンでも活躍するという「T-REV α」です。クランクケース内の圧力を弱めることで、いろんな恩恵が得られるということですが、それってど~いこと!? 今回はそんなちよっぴりマニアックな一品に注目です。

### Moto GPやF1では常識の減圧機構

このクランクケース内を減圧する機構はMotoGPやF1など世界最高峰のレースのマシンにも採用されている。シグナスXの場合0~1kpa程度だが、T-REV αを使用すると-10kpa前後の負圧状態に変えることができる。



■PHOTO:岩島浩樹  
■問い合わせ:寺本自動車商会  
☎072-875-8088



### T-REV α

(シグナスX・国内・F1用)  
3万6750円

▶ブローパイガスの脈動を利用した減圧システム。アルミ製アルマイト仕上げで、カラーバリエーションも豊富。AISと接続するためのホース類とホースバンドがセットに。廉価モデルのT-REV (2万7300円)もラインナップ。

6色から選択可能



### T-REV αによる効率的なガスの流れ

..... AISのユニット

クランクケースから出るブローパイガスの通り道

AISから流れる排気ガスがクランクケース内の空気を吸い出す

アクセルオン時ケース内の圧力を程よく抜く  
アクセルオフ時ケース内外気の混入をシャットアウト

一定速度での走行からアクセルをオフにすると「ググ〜ン」とエンジンブレーキが効き、速度はグングンと落ちていく。例えばこのエンブレ効果がもっと弱かったら…、アクセルオフからの惰性を上手に使えば燃費アップにも繋がるし、コーナリング時(特にスポーツ走行時)にはアクセルを開けたままブレーキを踏むなんていう美味しい回転数を保つための技をする必要もなくなる。これらを実現するのがこの「T-REV α」だ。

通常クランクケース内は加圧状態によってポンピングロス(吸気行程および排気行程におけるエネルギー損失)が起きてしまいがちだが、T-REV αを使用すると、内蔵されたワンウェイバルブの効果で加圧状態を回避。さらに排ガスを浄化するためのAISユニットとも接続することで低~高回転域まで全域での負圧化を実現してくれる。

つまりこれは発進から高速域までほぼ全域でクランクケース内を負圧状態に保ち、結果抵抗が減ってピストンがスムーズに動くようになり、「エンジンがきれいに回転するようになる」、「エンジンブレーキの効きが抑えられて乗りやすくなる」、「燃費が向上する」などの効果を得ることができるというわけだ。これはクランクケース内の圧力が高まりやすいポアアップ車ほど恩恵は大きいという。

ラインナップはシグナスX(国内・F1仕様)で、ノーマルマフラーのようなAISシステムを採用しているタイプのマフラー(キタコ製エグゼクスマフラーなど)に使用可能となっている。ノーマルのシグナスXじゃ満足できない、ワンステップ上の走行性能が欲しいという方にこそ、手に取ってほしい一品だ。

T-REV αの取り付け方法は①シートを取り外す。

②ブローパイホースの間にT-REV αを取り付ける。③T-REV αとAISのユニットを付属のホースで接続する。これでOK。作業時間は20分程度。

### キッシー岸田 街でテスト!

「エンジンブレーキが軽減されたのが走り出してすぐに体感できた。アクセルオフ時にスルスルと抵抗なく転がるような感覚で、燃費の向上が見込めるだろう。またこのエンブレの軽減はサーキットでも大きな武器にもなる。ブレーキリリースからのターンインする時に効いてしまっていた強いエンブレが和らいだことで、減速しすぎによるタイムロスが減らせるからだ。ポアアップ車だとより効果ははず。」



### キング藤永 サーキットでテスト

「182ccにポアアップしたシグナスXでテストしたのですが、コーナーのアプローチ時にエンジンブレーキが効き過ぎてアクセルをオンにするタイミングが非常に難しかったのが、装着後はアクセルオフ時にスムーズに入って行ける様になりました。コーナーを抜けてアクセルを開けた時のエンジンの吹け上がりも今までにない軽さになりました。エンジンパワーが上がったというより、エンジンのストレスが消えたという印象です。」

